

【エール】日野市発達・教育支援センター 通園事業 きぼう の支援 について

○療育目標 と ＊支援のポイント

「児童発達支援ガイドライン」の主に関連する領域

○落ち着いた 穏やかな心を育てる

＊健康で心地よく過ごせるような生活を基盤に、生活リズム、個々の感覚や特性、職員や自分への信頼感、状況に応じた行動等 に関する支援を積み重ね、育みます。

(ア)健康・生活 ・健康状態の維持・改善 ・生活習慣や生活リズムの形成 (イ)運動・感覚 ・感覚の特性への対応
(ウ)認知・行動 ・認知の特性についての理解と対応 ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 ・行動障害への予防及び対応
(オ)人間関係・社会性 ・アタッチメント(愛着)の形成と安定 ・自己の理解と行動の調整 等

○自分の気持ちを人に伝える力を伸ばす

＊職員と安心できる人間関係を築き、受容や表出、コミュニケーションを楽しむ経験を、繰り返し丁寧に積み重ねていきます。

(ウ)認知・行動 ・行動障害への予防及び対応
(エ)言語・コミュニケーション ・コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・言語の受容と表出 ・言語の形成と活用
・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ・コミュニケーション手段の選択と活用 ・状況に応じたコミュニケーション
(オ)人間関係・社会性 ・アタッチメント(愛着)の形成と安定 等

○友達と一緒にいることを喜ぶ心を育てる

＊職員との信頼関係を築き、それを基盤として、友達と過ごしたり触れ合ったりする心地よさや楽しさが感じられるように、生活や遊び・活動で経験を積み重ねていきます。

(エ)言語・コミュニケーション ・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ・状況に応じたコミュニケーション
(オ)人間関係・社会性 ・アタッチメント(愛着)の形成と安定 ・遊びを通じた社会性の発達
・自己の理解と行動の調整 ・仲間づくりと集団への参加 等

○自分で出来ることを増やす

＊体験しながら学び身に付けることを大切に、お子さんが自ら周囲の環境に触れ、様々なことをやってみながら、自分で出来ることを増やしていけるようにします。

＊基本的な生活習慣の形成は、ご家庭と連携を取りながら、お子さんの状態や特性に合わせ、無理なくスモールステップで進めます。

(ア)健康・生活 ・基本的生活スキルの獲得
(イ)運動・感覚 ・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ・身体移動能力の向上 ・保有する感覚の活用 ・感覚の特性への対応
(ウ)認知・行動 ・認知の特性についての理解と対応 ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 ・行動障害への予防及び対応
(オ)人間関係・社会性 ・自己の理解と行動の調整 ・仲間づくりと集団への参加 等

○自分の体をのびのびと元気に動かす

＊運動することだけでなく、生活の中での動作や様々な遊びの中でも体を動かす機能の発達を促します。また、お子さんが楽しんで体を動かせるような環境の構成や課題の設定等を行います。

(ア)健康・生活 ・健康状態の維持・改善 ・リハビリテーションの実施 ・生活習慣や生活リズムの形成
(イ)運動・感覚 ・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 (・姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用)
・身体移動能力の向上 ・保有する感覚の活用 (・感覚の補助及び代行手段の活用) ・感覚の特性への対応
(ウ)認知・行動 ・認知の特性についての理解と対応 ・対象の外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 等

通園事業 きぼう では「遊び」を中心とした「園生活」の中で「療育目標」につながるよう

経験を積み重ねていきます

園生活の一場面について ***子どもの経験** ◆**職員の意図・支援** を 例として挙げます。

注)一度に全部を経験するわけではなく、経験しなかったり、他にも経験したりします。

また、職員の意図・支援についても、他にもあります。あくまでも 例 です。

例: ~砂場での「遊び」場面~

*子どもの経験

*砂の感触を十分に味わう。
まみれる。こぼれ落とす。落ちる様子を見る。ダイナミックに動く。等

*湿った砂と乾いた砂の違いを感じる、知る。

*(素手で行う、道具を扱う、団子や山を作る、車を動かす等)
手指や体を動かしたり、力を調整したりする。
様々な動きを経験する。

*「やりたい」「貸して欲しい」「一緒にやって欲しい」等、
思いを表す。表し方を知る。

*自らやりたいこと、好きなことを行う。
繰り返し行う。十分楽しむ。試す。



*自分の思うように
(イメージしたように)
動く、動かす、つくる

*職員に見守ってもらう。
共感してもらう。
受け止めてもらう。

*職員や友達と同じ場(砂場)で遊ぶ。

*職員や友達の行っていることを見る。
真似る。

*つくったもの等を相手に渡す。
受け取る。

*職員や友達と一緒にいる、作る。

*道具の貸し借りをする。

*貸し借りのルールを知る。

*気持ちの折り合いをつける。
交代する(貸す)。

⇒ 職員は、子どもが経験していることを見取りながら、
個々の様子に合わせて支援していきます。

例: ~砂場での「遊び」場面~

◆職員の意図・支援

◆周囲のものや人、自然等に子ども自ら
関わり遊べるように、子どもの興味を大切
に、環境を構成したり機会をつくった
りモデルとなったり支援します。

◆楽しむ時間を十分に設けつつ、少しずつ
経験や興味を広げたり、出来ることを増や
したりしていけるよう働きかけます。



◆視覚、聴覚、触覚などからだの諸感覚を使って遊
び、からだの諸感覚の認識を豊かにしていくことで、
感じたことや考えたこと等を(言葉に限らず)様々な
方法で表現する基盤を培います。

◆楽しい雰囲気の中で先生や友達と関
わることで、身近な人と関わる心地よさ
を感じられるようにします。

◆場面に即して(物の貸借や順番等)ルールを経験
できるようにします。相手は自分と違う思いがある
ことや思いの表し方等を知らせていきます。

◆思い通りにいかない等子どもの不安定な気
持ちも受け止め、気持ちを切り替える経験等
につなげていけるよう支援します。

★ 通園事業 きぼう では 以下の「支援」の提供にも努めます ★

- ・(転園や就学等移行に関する)情報提供や相談援助、準備支援や調整・引継ぎ
- ・具体的、将来的な移行を見据えたお子さんへの支援
- ・保護者に向けて、お子さんの発達や子育ての困りごとに向けた情報提供や相談援助、支援方法の提案
- ・保護者同士の交流機会の提供
- ・地域の保健、福祉、教育及び医療サービス機関との連携を図ったサービスの提供